日本経済新聞
2014年（平成26年）8月28日（木曜日）

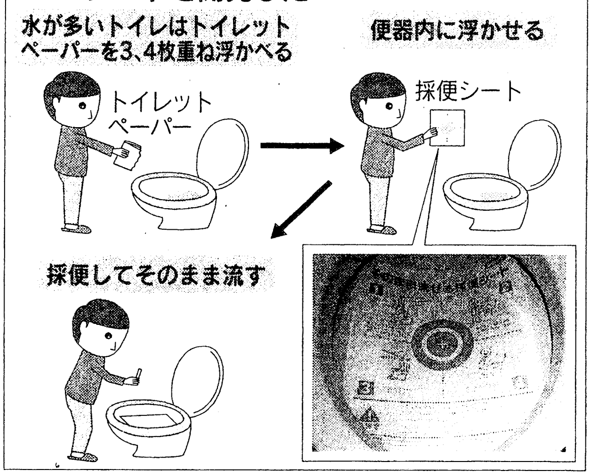
再生紙100%の採便シート

イトマン

大腸がん検査向け

フィルムと同等、半額で

業務用衛生用紙のイトマン（愛媛県四国中央市）は、再生紙を100%使用した採便シートを開発した。大腸がん検査の際、水洗トイレに敷いて採便しやすくする。添加剤を工夫し、水溶性フィルムを使ったシートと同じ性能を確保、製造コストを抑え他社製品の約半額で販売する。医療機関向けに大腸がんの検査キットを販売している企業などに売り込む。



採便が簡単になる再生紙100%のシートを開発した

採便シートは縦31センチ・横26センチで、トイレの水がたまった部分に浮かべる。便が水につかると正確な検査ができなくなるため、便が水につかるのを防ぐ。添加剤を加えて水をはじく特性を持たせており、5分間は水に浮くのでその間に便を採取する。

添加剤の量の調整で、トイレの水を流せばトイレットペーパーと同様に溶ける。節水タイプのトイレが普及しているが、少ない水でも問題なく流れることを確認した。

水溶性フィルムを使った類似品もあるが、同社は再生紙を100%使用。主力生産品であるトイレットペーパーと同じ原料で製造できる。製造設備をそのまま使えるため、低コストで製造できる利点があるという。

大腸がん検診の便潜血検査で苦労している人は多い。洋式トイレだと通常とは逆向きに座って水のない部分に便をする人や、新聞紙を使う人もいる。同シートを使えば普段と同じ姿勢で便ができる上、後処理の手間もかからない。

医療機関向けに大腸がんの検査キットを納めている企業に営業をかける。食品業界でも衛生管理のため従業員の便の検査をするため需要があるとみる。ネット通販「楽天市場」の同社サイトでも、100枚セット2160円（送料込み）で販売を始めた。3年以内に年1000万枚を販売するのが目標で、売上高で2億円規模の事業へと育てる。

同社は2013年8月期の売上高が約38億円で、ホテルや公共施設など業務用衛生用紙の製造販売が主力。衛生用紙は輸入製品との競争も激しく、新規事業を検討してきた。

衛生用紙の技術を生かしながら成長市場である医療分野への参入の検討を進める中で、第1弾として採便シートを開発した。